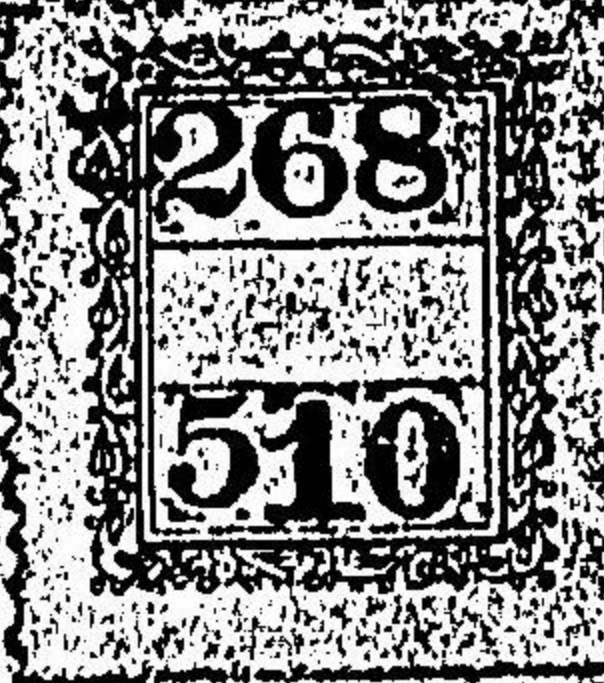


社縣

篠山神社案内記

福岡縣久留米市鎮座

社務所發行



014081-000-3

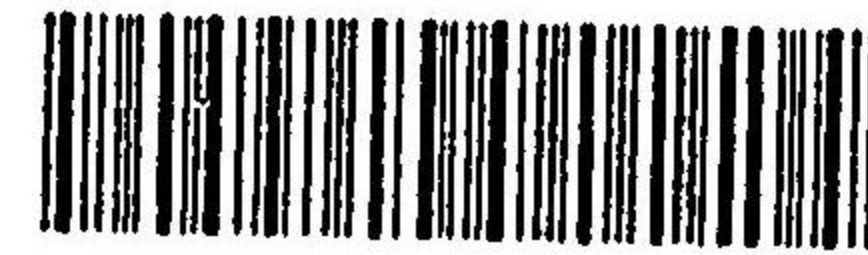
特14-432

篠山神社案内記(県社)

山田 義臣/著

M44

ABB-0339



縣社篠山神社案内記

祭神

本社

に御靈社と稱し、筑後國久留米藩

藩

主民が其德主有馬氏累代の恩徳を感謝し追慕

有

の餘明治十年七月官許を得て主として始祖

有

馬豐氏公並に中興の明主賴永公の尊靈を祭り

同十二年七月社號篠山神社と稱し縣社に列せ

られ、同十二年更に維新前後國事に盡瘁せら

れたる藩侯賴成公の靈を合祀し、毎年三月三四

兩日並に九月二十九日三十日に春秋の例祭を

行へり。

社地 社地は有馬氏の舊城本丸の址にして東西五十三間、南北八十七間、面積四千一百七十一坪を有す、境内高燥閑雅にして梅、櫻、楓、萩等の花卉多く、東に蜿蜒たる屏風山を控へ、西北遠く肥筑の連峰を望み、眼下には洋々たる千年川を廻らし、山川田野の風景絶佳なるを以て、賞花、翫月、納涼、觀雪の娛をかねて賽する者四時常に絶えず此處に八景の勝あり曰く

古城老松、柳原曉蓮、楓岡紅葉、
東野春靄、江南曉鐘、箕山秋月、

紫川煙雨、西山暮雪、

此地西北大河を帯び東南泥澤平原に臨み頗る要害なりとを以て、永正年間土豪某始めて城堡を築く、當時篠原なりしより篠原城と稱せり、爾來兵亂の世大友氏の部將屢々此に據る、天正十五年豊臣秀吉之を毛利秀包ひらに賜ふ、慶長五年毛利氏其封を失ひついで田中吉政筑後に封ぜらるゝや、其子主膳正を以て當城の守たらしむ、田中氏亡びて後元和七年有馬豊氏公本洲八郡の地を領せらるゝに及び、樓櫓を高うし湟池を深

うに大に其規模を擴めて之に居れり、爾來十一
代二百五十餘年を経て明治七年に至り城終に
廢せり。

末社 境内に左の末社あり

一、小早川神社

樂堂の南方にあり、小早川秀包(本姓は毛利氏)乃靈を祀
れるも乃なり。

二、奥庭神社

享保、寶曆此頃、農民騷亂此舉ありし際、其鎮撫
と善後策に盡力せし國老稻次因幡及有馬

岩見の靈を祀れるものなり。

三、篠根神社

寛永十五年島原亂乃時藩主に隨從出陣して
奮闘戰歿せし勇士稻次壹岐以下二百八十人
の靈を祀れり。

四、松根神社

藩主卒去の際屠腹殉死せし、北川坂右衛門、村
上久左衛門、堀江伊右衛門、岡村宇兵衛、猿木孫
次郎、關七郎右衛門、石井勘十郎等七士乃靈を
祀れり。

頓宮 筑後三井郡高良山に鎮座し給へる國幣中
 社高良神社の頓宮にして、明治四十三年四月久
 留米市に御神幸の際建立せしものにして、爾後
 隔年毎に此宮に遷座せらるゝことゝなれり。
 記念樹 神殿の東側に三株の松樹あり、一は明治
 三十三年十月二十四日 皇太子殿下久留
 米市に 行啓の際鶴駕を此地に枉げ給ひしを
 記念せんが爲に栽ゑたるものなり、他の兩株は
 小松宮彰仁親王殿下並に同宮大妃頼子殿下當
 社御參拜の際記念の爲御手栽あらせられたる

ものなり。

記念碑

一、西海忠士之碑

社頭に立てる一大石碑は鎮西勤王家の巨擘
 贈正四位眞木和泉守保臣を始め維新前後王
 事に盡瘁せし久留米藩志士五十餘名の偉績
 を表彰せんが爲明治二十五年に同志者の建
 てたるものにして、題辭は陸軍大將大勳位有
 栖川宮熾仁親王殿下の御揮毫あらせられた
 るものなり。

二、日清戦役記念碑

西海忠士の碑と相對して鉾形の銅碑あり、こ
は明治二十七八年の戦役に参加せし者の紀
念碑なり。

三、道君首名の碑

元明天皇の和銅六年筑後守たりし贈從四位
下道君首名の治績を顯彰せんが爲に建てた
るものなり、首名の事蹟は續日本紀及大日本
史に詳なり。

四、大伴部博麻

筑後上陽^{かみ}群^{むら}郡(後の上妻郡
今の八女郡)の忠臣大伴部博麻の苦
節を表彰せんが爲建てたるものなり、事は日
本書紀持統天皇紀に詳なり。

以上の二碑は共に神殿の背後に在り。

五、井上照算の碑

米藩に於ける妙見自得流鎗術の大家井上彌
左衛門照算先生の碑は神殿の西方梅林中に
在り。

六、津田遂退の碑

米藩劔術師範家津田一傳流の開祖津田一左

衛門遂退先生の碑また梅林中にあり。

石人首級 拜殿の西方にあり、是れ筑後國風土記に載せたる筑紫國造磐井の遺物石人の殘缺にして、今より一千四百八十餘年前の物なり好古家は須く傍の碑銘を熟讀せらるべし。

千鳥石 こは嘗て豊太閤の茶亭に在りしものにて、後有馬豊氏公に賜ひたるものなりといふ。

明治四十四年

十一月天長節

縣社篠山神社々務所

明治四十四年十月廿九日印刷

明治四十四年十一月三日屆濟

著者權發行者

山田義臣

福岡縣久留米市篠山町四百十二番地

印刷者

清松萬吉

福岡縣久留米市吳服町二十六番地

20-AB